

徳島時代の関寛齋（続報）

その医学的業績について

福 島 義 一

彼は千葉時代に佐倉順天堂塾で佐藤泰然について修学中「順天堂外科実験」をのこし、長崎留学時代には「長崎在学日記」および「朋百氏治療記事」（万延元年—文久二年）をのこし、また、徳島時代前期には「戊辰役奥羽出張病院日記」（明治元年）および「家日誌抄」（文久二年—明治三年）をのこした。

しかし、徳島時代後期には認むべき医学的論著を欠き、むしろ、医学知識の普及と啓蒙に努力して、「養生心得草」（明治八年）、「虎列刺病私考」（明治十二年）、「命の洗濯」（明治三十四年）など発表した。

右の中、「家日誌抄」の中に書きとどめた「膿疫症ヲ悔ルノ記」は、彼が奥羽出張病院頭取として出征中、治療した負傷兵患者約三百名中、本病によって死亡した患者は二

十三名であったが、このように高率な死亡者を出した原因は、充分な医学知識の欠如と適切な医療看護ができなかったことにあると述べて、深く自戒反省した感銘深い記録であることが判った。

彼は、本戦傷疾患の特徴として

(1) 創傷の程度は、大小深浅に関係なく発病。

(2) 死亡率が高い。

(3) キニーネ、モルヒネの与薬は、かえって死亡率をかめた。

など挙げた。

また、出征中の治療体験から次ぎの事項を実施すれば有効と認めた。

また、出征中の治療体験から次ぎの事項を実施すれば有効と認めた。

(1) 清潔（特に環境と衣服）にすること。

(2) 患者を個室に収容し、多人数雑居をさける。

(3) 患者の興ふん刺戟をさけ、精神の安静をはかる。

(4) 少量の燐酸水の頓用以外は、一切薬剤を与薬しない。

い。

(5) 創傷処置には、患部貯留液（分泌物）を充分に排除

する。

彼は、破傷風については十分な知識をもっていたので、
本病の本体は、敗血症であったと推定する。

(徳島市)

本邦放射線事始に尽した人びと

今 市 正 義

“スウェーデン王立科学アカデミーは、アルフレッド・
ノーベルが、彼の遺言状の中で創設した偉大なる賞のうち
の二つの授与を行なう特権を、ノーベルから与えられまし
た。——アカデミーは、ノーベル物理学賞を、ミュンヘン
大学のウィルヘルム・コンラッド・レントゲン教授に、お
贈りすることに決めました。——ここで、レントゲン線に
ついて発見された性質の一つだけを、思いおこしてみること
にいたします。

それは、医療におけるエックス線の広範囲の使用の基礎
をなしている性質です。——”

一九〇一年二月一〇日、ウイドネル王立アカデミー総
裁は、このような授賞のことは述べた(中村誠太郎・小沼
通二編「ノーベル賞講演 物理学」三五ページ)。